



真岡市議会議員

お世話になります！

中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひと未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4
Tel. 0285-82-6285 e-mail tonpei@i-berry.ne.jp
ホームページ <https://www.nakamurakazuhiko.com>



vol.76



一般質問が実現しました！



真岡東中学校が市内初の『コミュニティ・スクール』に

『コミュニティ・スクール』は、教育委員会から任命された保護者や地域住民などが、一定の権限と責任を持って、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりできる制度を持った学校のことです。

学校の諸問題を地域全体でカバーする体制がつくられることで、教員の多忙感解消や生徒への指導力向上などの効果が期待されます。

令和4年度から、真岡東中学校が市内初の『コミュニティ・スクール』として、新たな一歩を踏み出すことになりました。今後は市内の各校に普及・浸透が図されることを願うばかりです。



※実現に向けてご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

「見逃した！」という方に
バツクナンバーをお送りします

これまで「未来をつくる会」では、毎回定期議会終了時、「中村かずひこ通信」を発行してきました。1~75号までを見逃された方は、お気軽にこちらからお送りさせていただきます。

議会での質問の様子が、
インターネットの録画配信で
ご覧いただけます。



次回の「中村かずひこ通信」は
新聞の折り込みチラシをご覧ください。
次回発行予定日
8月7日(日)

2月定例議会報告 2/21 ▶ 3/17

2月定例議会が、2月21日(月)から3月17日(木)の25日間にわたって行われました。

今回執行部から出された議案は『令和4年度当初予算』や『教育長の任命につき同意を求めるについて』など33件で、いずれも原案通り可決となりました。

また、最終日の3月17日(木)には、議員提案により『ロシアによるウクライナへの侵略に断固抗議する決議』が提出され、全会一致で可決しました。

代表質問

議員による質疑・一般質問は、2月28日(月)、3月1日(火)の2日間行われ、中村は1日の2人目として登壇。会派『もおか新時代』を代表して、5件の課題について質問しました。



執行部は答弁の中で、
◆小中学校の児童・生徒に1人1台貸与しているタブレット端末を、今後は常時持ち帰る運用を検討していること
◆芳賀広域行政事務組合で計画している斎場の整備に向けて、最有力候補地の評価結果を令和4年度前半に公表予定であること
などを明らかにしました。

(中面に関連記事)

中村が行った代表質問の内容

1.「まちづくりプロジェクト」の総括と今後の展開について

- (1) 今年度の活動の総括と来年度の活動の計画について
- (2) 今年度実施した社会実験について
- (3) 「まちづくりプロジェクト」と『若者会議』の整合性について
- (4) 「(仮称)新・真岡市民大学」の立ち上げについて

2.教育関係の諸課題について

- (1) 児童・生徒に1人1台貸与されているタブレットの活用について
- (2) 真岡東中学校で導入される「コミュニティ・スクール」について
- (3) 学校図書館における専任司書の増員について

3.子育て世代への支援策について

- (1) 子ども医療費無料化の対象年齢引き上げについて
- (2) 多子世帯に対する経済的な支援について

4.大河ドラマの誘致について

- (1) 二宮尊徳翁を題材としたNHK大河ドラマの誘致活動について

5.芳賀地区広域行政事務組合が進める斎場の整備について

- (1) 整備に向けた進捗状況について

予算審査特別委員会

また、3月15日(火)に行われた「予算審査特別委員会」において、中村は以下の項目について質疑を行いました。

- | | |
|------------------------|----------------------------------|
| 1. 障がい福祉サービス事業費について | 6. 都市計画総務事務費について |
| 2. 介護福祉士資格取得支援事業費について | 7. 土地区画整理推進費について |
| 3. 保育士就職支援金交付事業補助金について | 8. 学校運営協議会委員報酬について |
| 4. イノシシ捕獲報償金について | 9. 特別支援教育支援員配置事業費について |
| 5. 空き家バンクリフォーム補助金について | 10. 第二学校給食センター増強整備調査・設計業務委託費について |



中村かずひこ議会レポート

質問:中村かずひこ

2月定例議会 代表質問



質問のやりとりが、インターネットの動画でご覧いただけます。



1.「まちづくりプロジェクト」の総括と今後の展開について

質問 令和3年度から、民間のアイデアで中心市街地の活性化を目指す『まちづくりプロジェクト』がスタートした。現在、20名がメンバーとして参加し、そのうち10名は高校生と大学生であり、若い世代が奮闘している姿に頼もしさを感じる。1年間の活動を振り返り、どのように総括をしているのか。また、新年度の活動計画は。

質問 『まちづくりプロジェクト』では、五行川河川緑地、金鈴荘、市役所2階の青空ステーション、二宮コミュニティセンター、久下田駅さくらホールといった、公共空間で社会実験を行ってきた。どの取り組みも若者らしい柔軟な発想で考えられた取り組みであり、市民を大いに楽しませてくれた。今回の社会実験は一旦終了させるのか。それとも新年度以降も継続させるのか。

質問 『まちづくりプロジェクト』のように、多様な価値観を持つ若い世代が、所属団体の枠を超えて交流を図りながら地域の活性化に汗を流すことは非常に意義が大きい。しかし、昨年5月に『まちづくりプロジェクト』がスタートした一方で、10月からは『若者会議』という別の事業も行われている。活動内容にあまり違いも見られないが、あえて2つの事業に分けている理由は何か。組織は1つにまとまっていた方が望ましいようにも思うが。

質問 今、まちづくりに必要なのは「ないものねだり」ではなく「あるもの探し」だと言われる。ただし、この課題は、全ての世代に求められているものである。益子町には、まちづくりの人材育成を目的とした『ましこ町民大学』という組織があるが、真岡市としても『まちづくりプロジェクト』や『若者会議』のその後の取り組みとして、同様の取り組みを検討してはどうか。

答弁 令和3年度は、市内5ヶ所で社会実験を行った。そのうち五行川河川緑地では2回のイベントで計3,000人以上が、二宮コミュニティセンターでのイベントにも1,500人が来場するなどにぎわい創出につながった。新年度は新たなメンバーを加えて、今回の5ヶ所に限らずに他の場所の活用も検討する。

答弁 活用が図られた公共空間は、すでに市民からも利用したいとの問い合わせが来ており、この活動を継続していくことが重要であると考えている。そのため、これまでに取り組んだ事業を含め、新年度も市民協働の活動として継続し、中心市街地にぎわい創出を図っていく。

答弁 『まちづくりプロジェクト』は、中心市街地の活性化を目的としており、公共空間の活用のような実践的な事業を行っている。『若者会議』は、令和4年度の団体設立に向けて、現在は準備期間としての活動を行っている。こちらは他業種交流及び勉強会を通じて、市の若手職員をはじめ、若者の視野を広げ、市政への多様な提案を行うものであり、それらの活動や目的は異なるものと考えている。

答弁 令和3年度は『まちづくりプロジェクト』を実施したほか、『若者会議』の準備活動も行い、それぞれ20名の若者が参加した。これらの事業はまだ始まったばかりであり、まずは市として支援を行い、活動の進展を見極め、真岡市の市民活動に即した仕組みづくりを研究していかたい。

2.教育分野の諸課題について

質問 真岡市内の小中学校では、児童・生徒に1人1台ずつタブレットの配布が昨年3月に完了し、通常の授業時間はもとより、毎週金曜日には自宅に持ち帰り、家庭学習にも活用されている。しかし、自宅に持ち帰ったタブレットも、週明けには学校に戻しているため、コロナ禍による休校などの問題が週の途中で発生した場合、対応できていないとの指摘がある。また、不登校の児童・生徒のタブレット活用も今後の課題と思うが。

質問 『コミュニティスクール』は、保護者や地域住民が、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動に意見を述べたりできる制度を持った学校のことである。全国で導入した学校では、地域と学校の信頼関係が強化され、教員の多忙感解消や子ども達への指導力向上につながっている。令和4年度から、真岡東中学校が市内初の『コミュニティスクール』となるが、具体的にはどのような取り組みを行うのか。また、今後他校に普及させる計画はあるのか。

質問 長野県塩尻市の「えんぱーく」は、図書館や子育て支援施設、市民交流スペースなどの複合型施設であり、真岡市が新庁舎周辺整備事業の計画策定をする際に参考としている。この施設では、子ども達の読書力向上に力を入れ、その一環として市内全小中学校への専任司書の配置を位置づけている。真岡市も、学校図書館に専任司書を派遣しているが、全小中学校に配置している宇都宮市や芳賀町と比べて、図書貸出冊数で2~3倍の差がある。専任司書の増員を検討してはどうか。

答弁 コロナ禍の影響などにより、急速登校できなくなった場合にも、円滑にオンラインで学習支援が受けられるよう、現在タブレットを常時持ち帰る運用を検討している。

また、不登校の児童・生徒への対応については、今後タブレットの具体的な運用の仕方を検討し、学習支援はもとより、オンラインを活用した教員や友達との関わり、スクールカウンセラーによる相談なども可能にしていかたい。

答弁 令和4年度から、真岡東中学校に学校運営協議会を設置し、学校、保護者、地域住民など16名が委員となって、学校運営の基本方針承認や教育活動についての話し合いを行う。「コミュニティスクール」の導入により、校長や教職員の異動があっても、地域との連携体制が継続できるなど様々な効果が期待される。教育委員会としては同校の取り組みを研究し、他校にどのように広めるか検討していかたい。

答弁 現在、専任司書は、小学校14校を4名で、中学校9校を2名で、巡回して業務にあたっており、図書の貸し出しのほか、読書への関心を高めるため、子ども達に本の紹介や調べもの学習のサポートなどを行っている。現体制で十分効果が出ていることから、現時点で専任司書の増員は考えていない。

3.子育て世代への支援策について

質問 『子ども医療費無料化の対象年齢引き上げ』について、昨年6月と9月の定例議会で質問した。執行部の答弁によれば「真岡市でも真剣に検討すべき時期に来ている」としつつ、県内で統一的対応が図られるよう、県の助成を引き上げる要望を行っているとのことだった。

県の助成を引き上げれば、各市町の負担軽減になるとは思う。しかし、県内14市中7市が、すでに対象年齢を18歳としている。対応が遅れるのは、好ましい状況ではないと思うが。

質問 真岡市の子どもの出生数は、平成26年度まで700人台を維持していたが、27年度からは600人台となり、元号が令和になって以降は500人台と減少率が著しい。これまで、真岡市でも様々な少子化対策、子育て支援策に取り組んできたが、多子世帯への経済的支援は十分でなかったように思う。「もう1人子どもを産もう」というきっかけ作りとして、出産祝金の増額や税制面での優遇措置などを考えてよいのではないか。

答弁 昨年9月に市長会と町村会が、県内で統一的な対応が取れるよう、県に対して子ども医療費無料化の対象年齢の拡大について要望書を提出したところである。

これを受けて、県からは『子ども医療費助成制度あり方検討会』を設置し、3月に第1回の会合を開くとの報告があった。真岡市としては、その動向を注視していかたい。

答弁 真岡市では、第3子以降の出産祝金を第1子、第2子よりも2万円多い5万円を支給している。また、保育施設の入所児童のうち、第3子以降の保育料を無料とし、副食費も3歳児以上の第2子以降は、4,500円を上限に補助している。

さらに、新年度からは多胎妊娠の健康診査費用の助成回数を上乗せしていく予定であり、今後も子育て支援の充実に取り組んでいきたい。

4.大河ドラマの誘致について

質問 茨城県常総市は、千姫(徳川家康の孫で、豊臣秀頼の正室)を題材にしたNHK大河ドラマを誘致しようと、千姫ゆかりのある三重県桑名市、兵庫県姫路市とともに誘致の会を結成し、今年1月に3市の市長がNHK本部に直接出向き、誘致への思いを関係者に訴えた。

真岡市は、二宮尊徳翁ゆかりの自治体と「全国報徳研究市町村協議会」を組織し、大河ドラマ推進委員会にも名を連ねている。毎年NHKに要望書を提出しているが、常総市などの取り組みを参考にして、もっと積極的に誘致活動を展開してはどうか。

答弁 NHK大河ドラマの放映は、真岡市にとって知名度アップやイメージ向上、経済波及効果などが期待できることから、今後も『全国報徳研究市町村協議会』と連携を図りながら、要望書の提出などの誘致活動を進めたい。

二宮尊徳翁については、NHKの番組やJR東日本発行の情報誌が特集を取り上げた際、真岡市も写真撮影や資料提供などの協力をに行っており、今後も継続していく。

5. 芳賀地区広域行政事務組合が進める斎場の整備について



質問 芳賀地区広域行政事務組合の斎場は、昭和53年に建設され、施設の老朽化が著しい。加えて、現在の炉の数では、将来亡くなる人数に対応できなくなる「対応限界」も早ければ4年後に迎えると予想されている。一昨年3月に「斎場建設基本計画」も策定されたが、いまだに建設場所さえ明確になっていない。建設場所の決定後、最短でも5年かかる事業だが、整備に向けた議論はどこまで進んでいるのか。

答弁 芳賀地区広域行政事務組合が確認したところ、候補地の選定条件整理が終了したことから、選定委員会を設置して、候補地の評価を進める予定である。最も有力候補地の評価結果については、新年度の前半に公表できるよう事務に取り組んでいるとのことであった。また、今後の建設スケジュールについては、候補地が決定してから調整していくことになるが、早期の建て替えを念頭に事務を進めていきたいとのことである。

再質問



「まちづくりプロジェクト」について

質問 「まちづくりプロジェクト」の社会実験に使われた公共空間について、市民からも利用を希望する声があがっているとのことであった。利用するまでの窓口や、利用促進に向けたPRなどは、新年度以降どこか部署が担当するのか。

答弁 五行川河川緑地などを利用する場合、土木関係の申請や施設管理者への使用許可などが必要になることから、当面は「プロジェクト推進室」を窓口にしていく。

要望 今回行われた社会実験は、若い人々が手間暇をかけて取り組んできたものである。新年度以降、その取り組みを継続させるか、何か今までと違うことをやるかということについては、ぜひとも参加者達が納得するような形で議論を進めていただきたい。

答弁 昨年6月の定例議会で質問した際、「まちづくりプロジェクト」については、今後民間ベースで中心市街地の活性化を進める「まちづくり推進機構」についての説明があった。つまり、実働部隊としての「まちづくり推進機構」と、若年層の人材育成をする「若者会議」というように目的を明確化する予定ではなかったのか。

答弁 まずは「まちづくりプロジェクト」と、令和4年度から正式立ち上げとなる「若者会議」という2つの組織の活動を見極めていきたいと考えている。その上で、全世代が集まる組織が必要なのかということも含めて検討していかたい。

質問 「まちづくりプロジェクト」と「若者会議」の目的の違いが分からず。マンパワーの分散も課題になるのではないか。例えば「若者会議」で出たアイデアで、「まちづくりプロジェクト」で実践させたいようなものがあった場合など、2つの組織の相互交流はどうやって進めていくのか。

答弁 相互交流も十分にやれると思っている。最初から行政側が細かい指示をするのではなく、若者達の自主性を重んじることが大切だと考えている。相互交流もあり得るし、両方に参加するメンバーも出てくるかも知れない。その辺りについては、今後の展開を見極めたい。

要望 異い世代の人々も、貴重な時間と労力を提供している。今後より多くの参加者を募りたいのであれば、明確なコンセプトを提示すべきである。また、こうした事業は、全ての世代が集まる場まで設えて、完成形に近づくのではないかと思う。「まちづくりプロジェクト」や「若者会議」のその後の取り組みとして、4点目で提案した市民大学のようなことも今後検討していただきたい。

教育分野の諸課題について

要望 タブレットを毎日持ち帰る運用を検討していることで、大きな前進ではないかと思う。こうした話になると必ず「壊れたらどうする」という議論になるが、壊れるリスクも学ばせてこそその教育だと考える。その点はあまり神経をとがらせずに取り組んでいただきたい。また「コミュニティ・スクール」について、最初に議会で提案したのが平成27年6月のことである。当時は「必要ない」との答弁だったので、隔世の感を禁じ得ない。教員の多忙感や人材確保が大きな課題となっている中で、地域の支援は必要不可欠である。この取り組みが他校にも普及するよう取り計らっていただきたい。

答弁 ベネッセ教育総合研究所の調査結果は、読書量が多ければ学力が上がるとは間違いないのだが、必ずしも比例している訳ではなく、ある一定量を超えると頭打ちになる。閑雲に読書量を増やすのではなく、読んだ後に子ども達に考えさせる読書指導が大切だと思っている。現状で十分とは言い切れないが、多くの教育課題がある中で対応しており、ご理解いただきたい。

学校図書館における司書の増員について

質問 平成30年にベネッセ教育総合研究所が、当時の小学生約4万3,000人を対象にした調査で、多くの読書をしている子どもほど学力が向上し、特に算数でそれが顕著であると発表している。さらに、宇都宮市と芳賀町と比べると図書貸出冊数で2~3倍の開きがあるので現状通りでいいという姿勢は、これまで学力向上に力を入れてきたことから考えると疑問に感じるが。

答弁 ベネッセ教育総合研究所の調査結果は、読書量が多ければ学力が上がることは間違いないのだが、必ずしも比例している訳ではなく、ある一定量を超えると頭打ちになる。閑雲に読書量を増やすのではなく、読んだ後に子ども達に考えさせる読書指導が大切だと思っている。現状で十分とは言い切れないが、多くの教育課題がある中で対応しており、ご理解いただきたい。

要望 真岡市の新庁舎周辺整備事業について、現在も市民の間に「必要なのか」という疑問の声がある。それは、塩尻市が「えんぱーく」を整備する際も同様で、そうした中で子ども達の読書力向上に力を入れ、存在意義を高めてきたという側面がある。真岡市もこれまで学力向上に力を入れてきた。そして、これから立派な図書館も整備していく。そうした中で、ぜひ学校図書館の専任司書というものを位置づけて、市民に対して今後どのような図書館をつくっていくのかを明確に示していただきたい。

子ども医療費無料化の対象年齢引き上げについて

質問 県において3月に会議を開くとのことだった。その返答次第で、市としての対応を決めていくという認識でいいのか。

答弁 3月に第1回目の会議を開き、全市町の担当者を集めて話し合いを行うことなので、すぐに結論が出る訳ではない。県も大変な英断をしてくれたと思うのでご理解いただきたい。

多子世帯への経済的支援について

質問 これまで様々な支援策を打ち出してきた。しかし、それでも結婚に踏み切らない人が多い。コロナ禍で出会いの場も少なくなっている。そして、子どもは欲しいが授からない夫婦もいる。こうした状況で「人口ビジョン」の目標に近づくには、すでに子どもがいてもう1人産みたいと願いつつ経済的な理由から躊躇している夫婦に支援を行うのが、最も効果があると思うが。

答弁 真岡市では、多子世帯に限らず、県内ではあまり見られないような市独自の様々な子育て支援策を行っているが、それらのPR活動も重要であると考えている。今後そうした取り組みを充実させていきたい。

大河ドラマの誘致について

質問 以前に質問した際、千葉県香取市が伊能忠敬の大河ドラマの誘致に向けて街中にポスターなどのぼりを掲げていた取り組みを紹介した。そして、今回の常総、桑名、姫路の3市長の動きを見ていると、誘致できるかどうかの結果論以上に大切なのは、トップ自らが先頭に立って運動を盛り上げる姿勢を見せることではないかと感じるのである。

答弁 大河ドラマを取り上げてもらうことは、期待をしているが、1市だけかり「フォーマンスで動くことが適切とは思えない。全国17市町村で「全国報徳研究市町村協議会」という組織をつくり、長年にわたって共同で取り組んでいくことなので、今後も連携しながらやっていくことが重要であると考えている。

要望 足並みをそろえる必要があるのなら、常総、桑名、姫路の3市長のように、(大河ドラマ推進委員会を構成している)5市の市長で足並みをそろえることはできるのではないか。二宮尊徳翁の農村復興が真岡市から始まったということに、もっと市民は誇りを持つべきである。ぜひ「シビックプライド」の醸成のためにも、さらなる奮闘をお願いしたい。

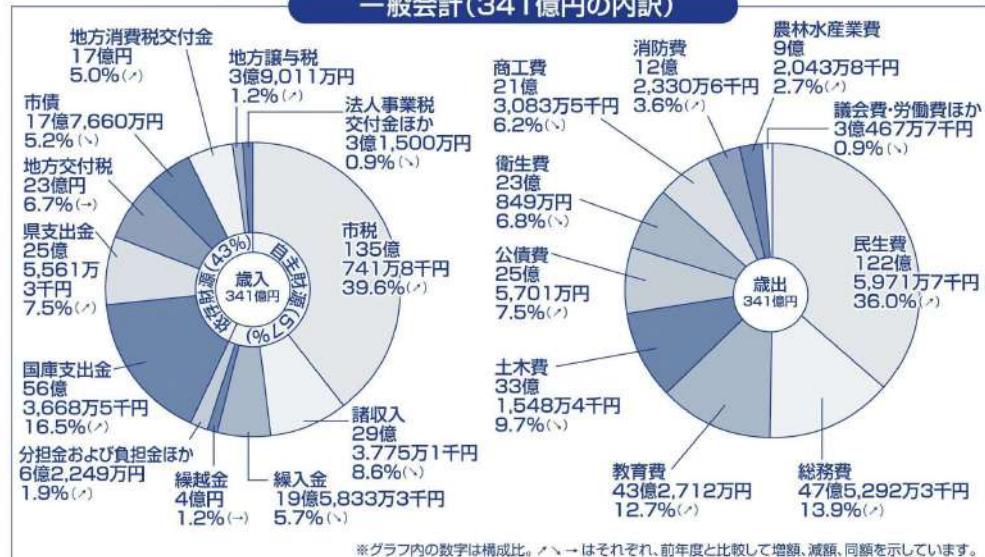
真岡市 令和4年度 当初予算が決定

総額は 567億9,816万3千円 (前年比 3億7,384万3千円減)

令和4年度 会計別予算額

区分	令和4年度予算額
一般会計	341億円
国民健康保険	82億2,296万2千円
後期高齢者医療	8億8,975万6千円
特別会計	介護保険(保険事業勘定) 66億1,229万円
	介護保険(介護サービス事業勘定) 1,495万2千円
	休日夜間急患診療所 6,479万7千円
	産業団地整備事業 9億9,151万5千円
	計 167億9,627万2千円
	水道事業会計 24億9,554万8千円
	下水道事業会計 34億634万3千円
	合計 567億9,816万3千円

How much? 総額 498億7,493万2千円
真岡市の 市債償還予定額
(前年比 17億6,579万3千円 増)
(今後、市が返さなくてはならない借金)
一般・特別水道・下水道+利子含む(令和2年度末現在)



*グラフ内の数字は構成比。↑ ↓ → はそれぞれ、前年度と比較して増額、減額、同額を示しています。

大学生インターンシップ事業

今回参加した学生達



高橋 葉那さん
白鷗大学 法学部 1年



加藤 希美さん
白鷗大学 法学部 2年



海老原 宏樹さん
白鷗大学 法学部 2年
(指導係)



市議会の傍聴
議場での代表質問・一般質問のほか、常任委員会での議論も傍聴しました。



真岡市内を視察
市長や市職員、議員のほか、市内で様々な活動をしている人のもとを訪れ、貴重なお話をうかがいました。

2ヶ月間の活動の様子



祝 政策コンテストで県大会優勝!
事務所対抗で行った政策コンテスト『未来自治体』で、真岡市の空き店舗対策を考え、見事に県大会優勝と全国大会出場を果たしました。

コラム ずーむあつぶ

私が大学生達をインターンとして初めて受け入れたのは一昨年夏のこと。その後、昨春・夏と続き、今春が4回目となった。この事業は、NPO法人ドットジェイピーが主催しているもので、大学生達が全国各地の議員のもとで社会経験を積み、政治への関心を深めることを目的としている。

そのインターン生達が活動期間中にに行うものの1つに『未来自治体』がある。

これは、受け入れた議員の事務所ごとに政策のアイデアを競うコンテストで、各議員が活動する自治体の課題を見出し、解決するための手法を提言するというもの。インターン生の中にも出身・在住者がいれば、真岡市の状況も多少は分かるだろうが、今回受け入れた2人はいずれも市外出身(うち1人は長野県出身)の女子学生。そうした中で、真岡市の課題を考えろと言われても大変だろうと、活動開始日に真岡市内を案内した。そして彼女達が選んだ真岡市の課題は『空き店舗対策』だという。報告を聞いて私は思わず首をかしげてしまった。

『未来自治体』 ~大学生達から教えられたもの~

実を言うと、彼女達は当初「どの自治体も人口減少が深刻だから、真岡市の移住・定住促進策を考えたい」と言っていたのである。「移住・定住促進 ⇄ 空き店舗対策」少し論点がずれているように感じられた。『移住・定住って言ったら、普通は子育て支援策や雇用対策みたいな政策ではないか?』娘ほど年の離れた2人の女子学生に、大人気なく議論を吹っかけてみた。しかし、彼女達は持論を曲げる気配が全くない。

『若者達は、市内のどこに行けば楽しい時間を過ごせるのか?』『楽しい時間を過ごせなければ、まちに誇りや愛着は持てない。それ以外の定住促進策が充実していても、住みたいとは思わないのではないか?』彼女達から投げかけられた疑問に返す言葉がなかった。

その後、見ているこちらがヤキモキするほど、彼女達は大会直前まで糾余曲折を繰り返したが「若者の居場所がないまちに未来はない」という思いだけは最後までブレなかつた。そして、議会傍聴や市職員へのインタビュー、市内の若者へのアンケートなどを続け、それから得たヒントで政策を日々進化させていった。結果として、県大会優勝と全国大会出場を果たしたのだが、そこに至るまでの熱意には本当に頭が下がった。

人口減少や若者の定住促進は、真岡市だけでなく全国の多くの自治体で課題となっている。しかし、本気で考えるのであれば、まずはその世代の声に耳を傾けなくては何も始まらないということを、今回私自身が思い知らされた。

中村かづひこ活動日誌

1月

- 6日 貢詞交歓会
- 8日 真岡市消防団出初式
- 9日 成人式
- 12日 岩瀬大高校生徒より取材
(「ひばりの会」の活動として)
- 13日 議会報告会・意見交換会
グループホーム尊徳 運営推進会議
- 14日 広報広聴委員会
- 17日 あいさつボランティア
- 18日 ローカル・マニフェスト推進連盟研修会
議員協議会
- 21日 地域活性化等検討委員会
新型コロナウイルス感染症対策支援本部会議
- 24日 あいさつボランティア
- 26日 地域公共交通に関する地区説明会
総務常任委員会オンライン研修
- 27日 あいさつボランティア
- 28日 空き店舗対策店舗を巡回
空き店舗対策店舗を巡回
- 31日 まち会議監査

2月

- 1日 会派代表者会議
- 2日 全国若手市議会議員の会OB会
オンラインミーティング
- 7日 あいさつボランティア
- 8日 予算内示
- 9日 清渓セミナー実行委員会三役会議
ローカル・マニフェスト推進連盟研修会
会派代表者会議
- 10日 会派代表者会議
議会運営委員会
議員協議会
広報広聴委員会
- 14日 大学生インターン指導日
議員協議会
広報広聴委員会
代表質問の通告書を提出
- 17日 会派代表者会議
全国若手市議会議員の会OB会
オンラインミーティング
- 21日 あいさつボランティア
- 24日 大学生インターン指導日
NPO法人ドットジェイピー「中間発表会」
質疑・一般質問1日目
※この日、2人目に登壇

3月

- 1日 質疑・一般質問2日目
会派「もおか新時代」ミーティング
民衆文教常任委員会を傍聴
- 4日 大学生インターン指導日
全国若手市議会議員の会OB会
オンラインミーティング
- 6日 ローカル・マニフェスト推進連盟
議選監査に関する勉強会
あいさつボランティア
- 7日 産業建設常任委員会を傍聴
会派代表者会議
大学生インターン指導日
- 9日 真岡市遺族会連合会役員会
大学生インターン指導日
- 10日 総務常任委員会1日目
総務常任委員会2日目
予算審査特別委員会通告締め切り
※その後、市の担当課によるヒアリング
- 11日 大学生インターン指導日
大学生インターン指導日
熊谷4区会計監査
- 13日 「未来自治体」楠木ブロック大会
あいさつボランティア
- 14日 会派代表者会議
議会運営委員会
予算審査特別委員会
議員協議会
広報広聴委員会
- 16日 「未来自治体」全国大会
2月定期議会閉会
議員協議会
議会活性化等検討委員会
大学生インターン指導日
大田原市長選の応援
- 17日 2月定期議会閉会
議員協議会
議会活性化等検討委員会
大学生インターン意見交換会
壬生町議選の応援
NPO法人ドットジェイピー「最終報告会」
- 27日 真岡地区遺族会正副会長打ち合わせ
- 30日 真岡地区遺族会正副会長打ち合わせ